BACH　スクリーンコンサート

２０２１．１１月

１１月のテーマ　　アダージョ

（どこかで聴いたことのある心に残るメロディー）

音楽の速度標語。イタリア語の adagiare（くつろがす）を語源にもち、1611 年にイタリア人バンキエリが彼の作品に用いたのが、速度標語としての最初であろうと言われている。

当初は文字どおりの「くつろいで」や、または「ゆったりとした速度」を意味していたが、現在では一般にアンダンテとラルゴの間の速さ「静かに緩やかに」を意味する。

アダージョは、心地いいくらいゆっくりとした第２楽章緩徐(かんじょ)楽章を示す用語としても用いられ眠くなりそうな楽章です。

1、ロドリーゴ　「アランフエス協奏曲　第２楽章」　　１２分

ギターの名曲として高い知名度を獲得している。
印象的なメロディから特に人気が高く、別名でこの楽章は「恋のアランフェス」というムード音楽に編曲されるなど、ポピュラー・クラシックとしても大変親しまれています。

2、ラヴェル　「亡き王女のためのパヴァーヌ」　８分

パヴァーヌはと、16 世紀のヨーロッパで普及した行列舞踏です。
「亡き王女」のモデルと言われているのが、17 世紀のスペイン王女マルガリー。
古き良き時代を懐かしむかのような、感傷的な曲調の音楽です。「北の国から」の最終編の回想シーにこの曲が流れ、ホルンの響きが広大な北海道の大地を連想させ、とても印象深い最終回でした。平原綾香がクラシック曲のカバーアルバムで歌っています。

3、アルビノーニ　「弦楽とオルガンのためのアダージョ」　８分

オルガンと弦楽器が奏でる切なく感傷的な旋律の「アルビノーニのアダージョ」は、数々の映画やテレビ番組のテーマ曲にもなった名曲で、1980 年に NHK-TV が放送した向田邦子作の阿吽でこの曲が劇中に流れ印象深く記憶に残っている。
日本や欧米では葬儀のとき最も使われている曲の一つでもある。
オルガンと弦楽器で聴いたあともう一度歌で聴いてみましょう。

4、マスネ　「歌劇《タイス》から 瞑想曲」　6分

歌劇「タイス」の第２幕第１場と第２場の間の間奏曲で、ハープによる短い導入部をともない始まり、ソロバイオリンは、総じてコンサートマスターによって演奏されるか特別なソリストがオーケストラの前に立って演奏します。弦楽器奏者のアンコール曲の定番としても知られています。

5、バーバー　「弦楽のためのアダージョ」　8分

『弦楽四重奏曲 ロ短調 作品 11』の第２楽章を弦楽合奏用に編曲したものです。
ジョン・F・ケネディの葬儀、アメリカ同時多発テロから１年後に行われたニューヨーク市でのニューヨーク世界貿易センタービル跡地での慰霊祭、昭和天皇崩御のとき流れていた曲。すすり泣くような旋律、中間部終わりの激しく突き上げる慟哭（どうこく）のようなクライマックスで知られる。

6、マーラー　交響曲第５番第４楽章　１１分

第４楽章 Adagietto. Sehr langsam. アダージェット（非常に遅く）、ハープと弦楽器のみで演奏されます。
静穏さに満ちた美しい楽章であることから、別名「愛の楽章」とも呼ばれる。
映画『ベニスに死す』で使用されたことで有名となり、この楽章だけしばしば単独で演奏される。

最後に
今年はサンサーンス没後１００年の年、交響曲３番オルガン付きの２部２楽章を
華麗なピアノ、荘厳なオルガン、あでやかな管弦楽の壮麗な響きの楽章です